

1.研修プログラムの名称

皮膚科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

皮膚科学分野の臨床研修では、今後、各臨床科の医師として勤務する際、必要となる皮膚科基礎知識を研修医に習得させることを目標としている。具体的には、全身性の発疹の対処法、アナフィラキシーを含むアレルギー疾患の検査、簡単な皮膚切開、縫合法などである。また、「患者様への分かりやすい病気の説明」とはどのようなものなかを、初診診療の陪席につくことで学ばせる。

3.到達目標

皮膚科外来診療、手術、抄読会などの医局主催勉強会を通して、基本的な皮膚科学の知識、検査技術、治療技術を身につける。

4.指導体制・方略

外来では指導医の初診の陪席につき、症例ごとに指導を受ける。

病棟においては、診療チームのメンバーのひとりとして、グループリーダー、専攻医と共に入院患者の診療を行う。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
9:00～			手術日			
16:30～		症例検討会 医局会				

6.カンファレンス

・

7.研修活動

8.評価

1)研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2)指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3)コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4)研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

当科では専門外来としてアレルギー、アトピー、乾癬、脱毛症、白斑、乾癬、腫瘍、膠原病、陷入爪、レーザ

ー外来を設けている。これらの外来へ積極的に陪席につき、皮膚科の専門的な診療を学ぶことを推奨している。

10.研修中に作成する病歴要約

(**赤太字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、他対象疾患を診察したら作成する)

経験すべき症候

ショック、**発疹**、発熱、頭痛、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、終末期の症候

経験すべき疾病・病態

高血圧、肺炎、急性上気道炎